

文化勲章の画伯が描いた
初代校長「島地五六」肖像



初代校長「島地五六先生」
油彩25号 作・藤島武二画伯（飯田高校所蔵）

もう幾年か前のことだが練馬区立美術館で同期の友・矢澤西二君と一緒に「藤島武二生誕150年記念展」を見た。共に傘寿を過ぎた足どりでゆつくりと見て回っていて、突然感動の声を上げた。「おい、第1回の文化勲章受章者だったとは驚きだ」「うん、知らなんだなあ」美術館を出てからも、藤島武二画伯が文化勲章・初の受章者だと初めて知った僕らは興奮気味に話し合っていた。「母校の島地校長肖像画に箔がついたね」「ただどあの肖像画など見たこともない後輩が多いよ」「そうだ！『稲穂』だ。稲穂で紹介するといいで」

「おお、初の文化勲章受章画家が描いた校長肖像か。こりゃあ飯田高校のお宝だものなあ」
* *
あれから幾年過ぎたか急に懐かしく思い出し、校史や同窓会沿革など調べ

て「お宝肖像画の来歴」をざっと記す。旧制飯田中学の生徒には眼に焼き付いている肖像画だが、高校になってから縁遠くなった感じだから。

◆島地五六校長の肖像画。大正15年10月17日。創立34周年記念式典、校舎移転新築（上郷高松）と卒業生記念館落成式。この日、藤島武二の描いた肖像画が記念館の目玉として掲げられた。この超有名な画伯に僻地の学校長肖像を描かせた大功労の詳細は残念ながら不明。創立当時の卒業生諸兄が熱烈に広く協力を求め、市田村出身の漫画家・清水対岳坊の名も出るが、もっともって強力な幸運に恵まれて誕生した肖像画だと考える。菱田春草の故郷と知り、驚いた巨匠の画筆が動いたのかもしれない。

◆講堂の主になった肖像。昭和5年12月。新築落成した講堂に飾られ式典ごとに綴帳が開かれ全生徒から親しまれていた。昭和20年3月、校舎すべて豊川海軍工廠に接収され、講堂は学校工場の大食堂になり、肖像画は何処かへ避難安置された。

◆今は校長室の壁に輝く。創立取締役から校長で30年にわたり慈父のごとく生徒を見守った島地五六の肖像画。お宝鑑定団なら凄い数字は確実。思うだけで我らの心も温かくなる。

牧内雪彦（中47・高1回）

*高齢につき本号をもって本欄担当を引退します。
永い間お世話様になりました。